

つくば市の医療と介護のありたい姿のロードマップ

「つくば市の医療と介護のありたい姿」は、医療や介護を必要とする状態の高齢者でも、住み慣れた自宅で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域の実情に応じた「地域包括ケアネットワーク」を推進するために、つくば市在宅医療・介護連携推進協議会において協議・作成したものです。

本ロードマップは、その達成のために、在宅医療・介護連携推進事業等において取り組む内容と 2025 年の目標、2040 年の理想、将来の到達点をまとめたものです（次期、高齢者福祉計画にも掲載予定）。

つくば市の医療と介護のありたい姿

1 高齢者が自宅で日常生活を送るための医療・介護サービスとその多職種連携の充実

（医師やケアマネなど、誰でも顔が見えて、腹を割って話せる関係づくりと、関係者が共通の目標に向かって行く関係づくり）

2 自宅で生活する高齢者の看取りに向けた環境作り

（終活や ACP を通じた本人の意思と多職種の理解）

3 介護施設や介護サービスの利用が選択肢となることの周知

（自宅生活の延長としての特養等での生活）

4 医療介護関係多職種のスキルの向上によるマネジメント力の強化

（医療、介護、福祉に携わる人材育成の強化。スキル向上）

5 高齢者に関する地域での支え合いと介護予防の強化

（地域でのつながりや介護予防事業の適切な実施により高齢者が活動を継続）

6 独居高齢者の見守りや認知症高齢者の適切な対応

（支援が必要な独居や認知症の高齢者への行政・事業者・地域による支援）

7 医療介護サービスにつながらない高齢者を見つけるためのコミュニケーションの強化

（医療介護サービスの利用を進めるための地域内のコミュニケーション力の向上）